

ASEAN グローバルプログラム に参加して

滝野 隼己

Hayaki TAKINO

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2019年8月27日から31日にかけて、ベトナムのハノイを中心に現地企業訪問や現地大学生とのPBLを行い、シンガポールの中心部で大学見学やビジネスパーソンとの交流会などを行った。具体的な日程は下記の表1に示す。この報告ではASEANグローバルプログラムに参加した目的やプログラムの内容、ベトナムやシンガポールと日本の違い、このプログラムを実施したことで学んだもの、そして今後の目標についてまとめる。

表1 日程

8月27日(火)	出国, ハノイ着
8月28日(水)	現地企業訪問
8月29日(木)	ハノイ工業大学の生徒と PBL
8月30日(金)	ハノイ工業大学の生徒と PBL, 最終プレゼン発表
8月31日(土)	記念館等の訪問, 自由行動
9月1日(日)	ハノイ発, シンガポール着
9月2日(月)	南洋理工大学での講義, 見学
9月3日(火)	Google 社訪問, ビジネスパーソンと 交流, 加藤順彦氏の講演
9月4日(水)	自由行動, シンガポール発
9月5日(木)	帰国

2. 参加した目的, 理由

私が、参加した理由は2つあった。私は、急激な速度で成長している世界の技術を見て、今後のグローバルな社会に自分が浸透するためには日本に留まっているだけでは不可能だと考えているため、大学生の間に長期の海外経験を積みたいと考えている。

そこで一つ目として、その前に一度、短期のプログラムに参加することで長期の海外滞在時により将来を見据えた具体的な目標をもって活動することができると思ったことがある。2つ目は、今の自分の英語力でどの程度海外の人々と会話することが可能なのかを見極めるためだった。

3. 研修内容・ハノイ工業大学生との PBL

今回のプログラムのメインはベトナムでハノイ工業大学生と PBL であった。その内容は、鈴木栄堂社の塩レモンキャンディの売り上げをより伸ばすことを目的として、7人のグループ（日本人5人、ベトナム人2人）で話し合い、考えた方法についてアンケートを作成し、現地の大学内で調査を行い解析し、より効果的な販売方法を求めるといったものだった。

現地で話し合いをする前に私たちは、日本で、どのように商品売ることが適切なのかを考えていた。そのなかで候補をいくつか出し合い、その案を当日ベトナム人の学生に伝えた。伝える際に、私たちの英語だけではうまく伝えることができなかった。ハノイ工業大学の生徒たちは私たちより明らかに会話も含めて英語の能力が高く、うまく私たちが伝えることができないのはとても悔しく、自分の未熟さに気づかされた。しかし、実物を見てもらうなど工夫をすることで、何とか内容を伝えることができた。アンケートを2日に分けて実施したのだが、3時間と2時間という時間を設けているにも関わらず、同じ班のベトナムの生徒は積極性が高く、例えば授業中の教室に入りアンケートを実施する許可を得るなどしてくれ、1時間もかからずに100枚のアンケートを回収できた。

アンケート結果を集計し、プレゼンテーションを作成した。プレゼンテーションでは、仮説やアンケート結果、考察を簡潔に書くことで1枚に抑え、まず英語でより見やすいものを作り上げられるように工夫した。昼間の英語での発表後、班のベトナム人と別れた後、同じ内容を日本語で作直し、夜に鈴

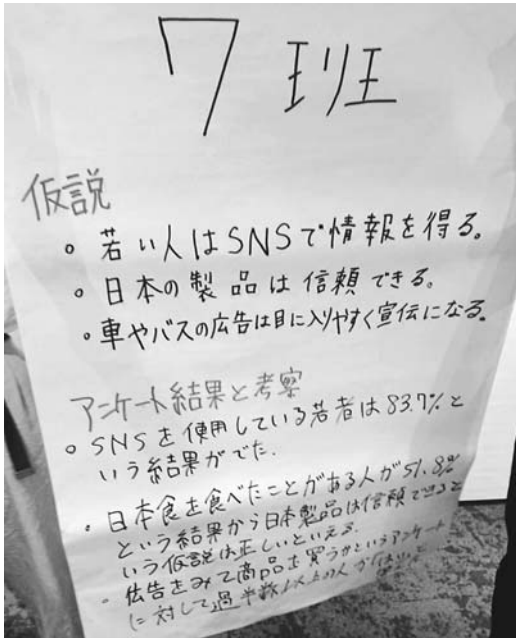


写真 日本語での最終発表のポスター

木栄工堂さんの社員さんや、マーケティングのプロの方の前で発表を行った。英語で行った時よりもより具体的なことを伝えることができた。

この研修を行って、特に自分の英語力の無さを痛感した。日常会話だけでなく、専門的な用語の単語力をつける必要があるとわかったし、なにより文化の違いによる各国での常識の違いやベトナム人の積極的な態度をもっと真似てみようと思った。

4. ビジネスパーソンとの交流と加藤氏の講演

もう一つ印象深かったものとして、シンガポールでのビジネスパーソンの方々との交流がある。ここでは4つの班に分かれて、4名のビジネスパーソンの方々順番に回って来られる形での交流だった。シンガポールで働いている経緯や、日本との違いなど、気軽にいろいろな話を聞くことができた。この交流会から、具体的な目標を立てるということが大切ということに気付いた。そこで帰国してからは、

自分の考える目標を立てようと思った。

加藤順彦氏の講演では、大学生のころのビジネスに通じた活動を行っていた話や、ASEAN 諸国等の今後のビジョンやそれに対しての日本のビジネスについての話がきけた。特に日本のビジネスのお話では、業界で5位や6位程度のシェアの会社は上位の会社を買収されたりするのが常、ということに衝撃を受けた。もちろん上位にある会社に就けるのは少数になると思う。よって、就ける仕事が少なくなるのは必然的なのかなと考えさせられたが、現在のYoutuberのように昔では想像することができなかった職ができていくことを聞いて希望を持った。しかし英語を使えるようになり、海外での就職を考え、自分の可能性を増やしていくことが必要だと思った。日本では少子高齢化が進み続けており、海外に支社を置く会社が多くなっていくという話もされていた。人口が減る日本より、増えている国で現地に会社を建てる方が発展するのは間違いない。これらのことにより、今後仕事に就くうえで、英語を話すことができるのは当たり前なことになると感じた。

5. おわりに

このプログラムに参加して、英語で話す大切さを痛感した。世界で1番多くの人が話す言語を身につけることが、日本の技術の発展につながる。さらに、より多くの国の人が入り混じり多くの思想を合致させることで、多彩なアイデアから最も有効的な方法を求めることができると学んだ。それは今回ベトナムの生徒とチームを組むことにより気づかされた。

自分の武器をもっと増やすため、英語の能力の向上を図るため、そして日本の常識の通じない各国の文化を知るために、海外経験をより積んでいきたいと思った。